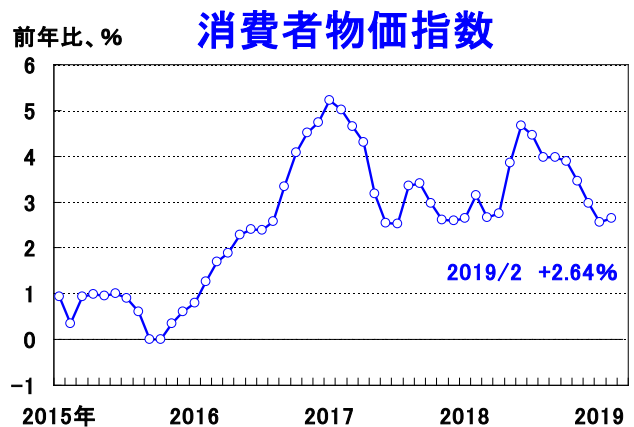
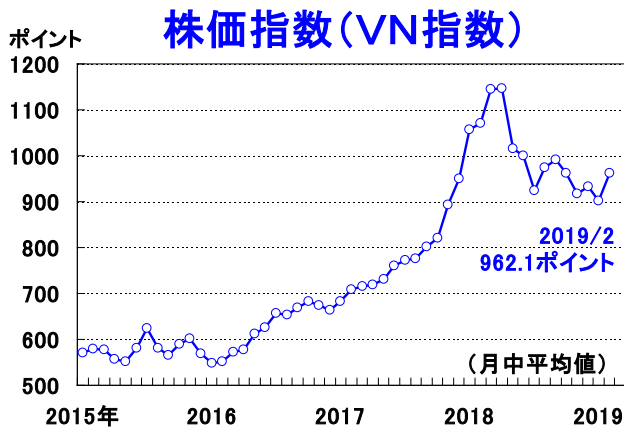
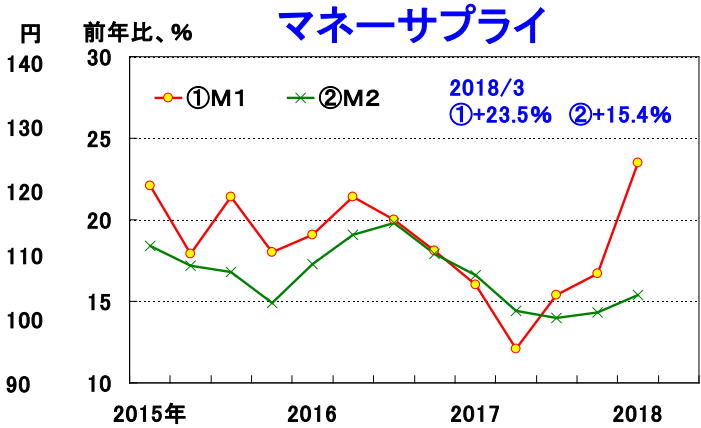
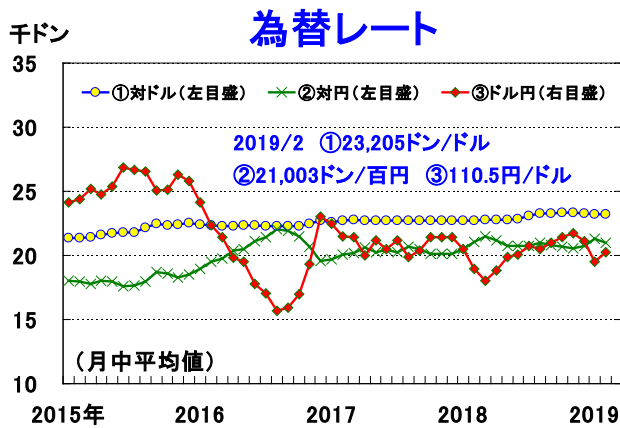
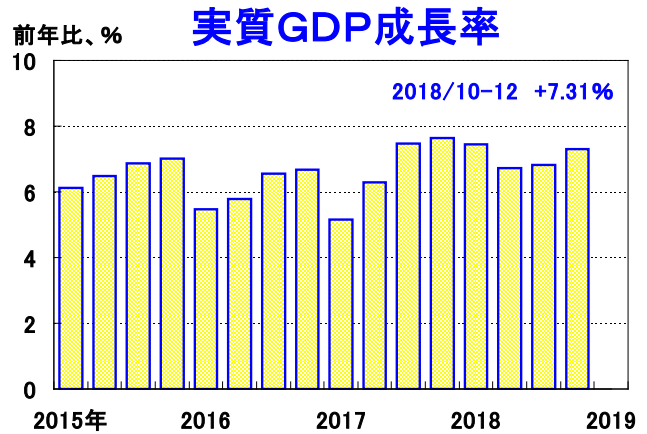
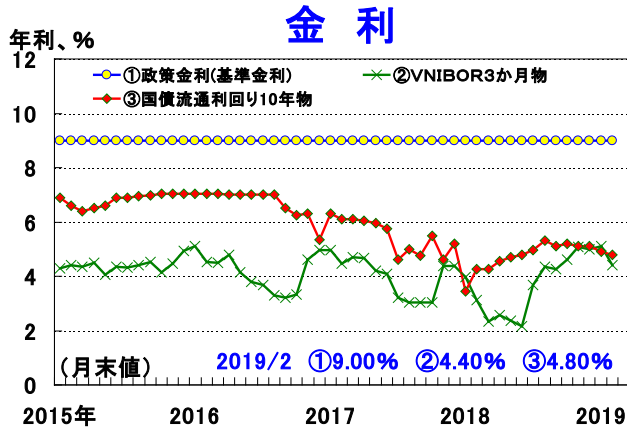


グラフで見るベトナム経済 2019年3月号(No. 110)

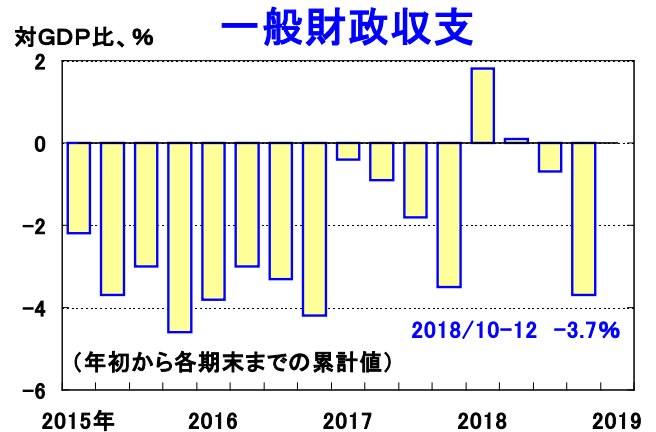
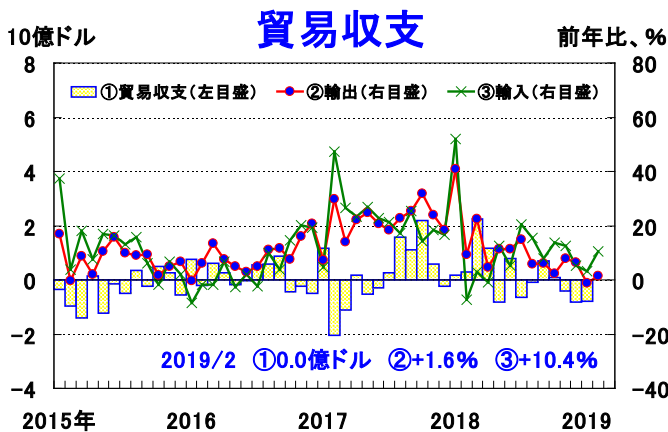
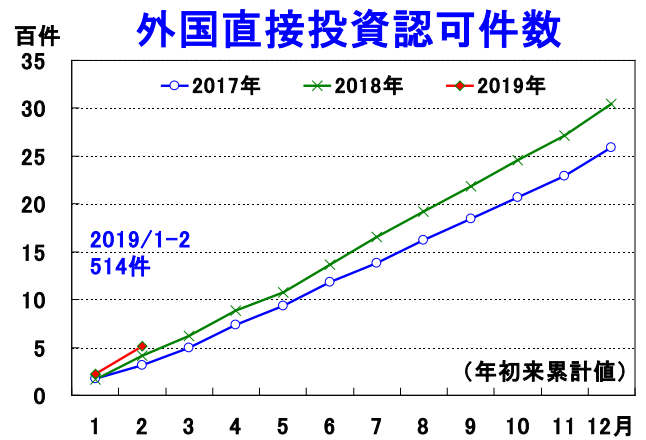
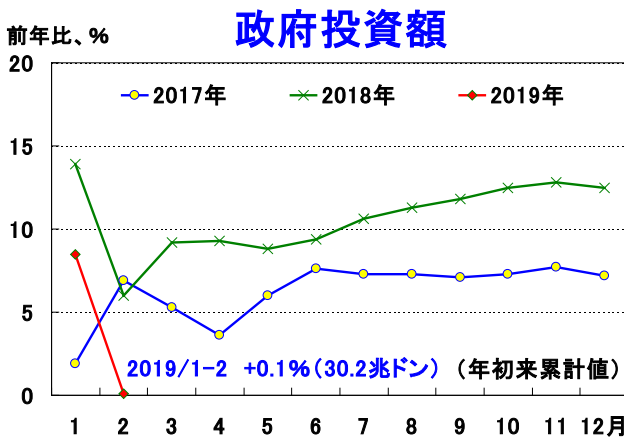
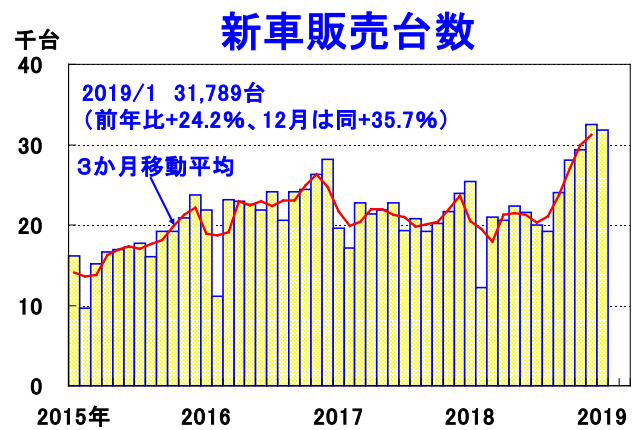
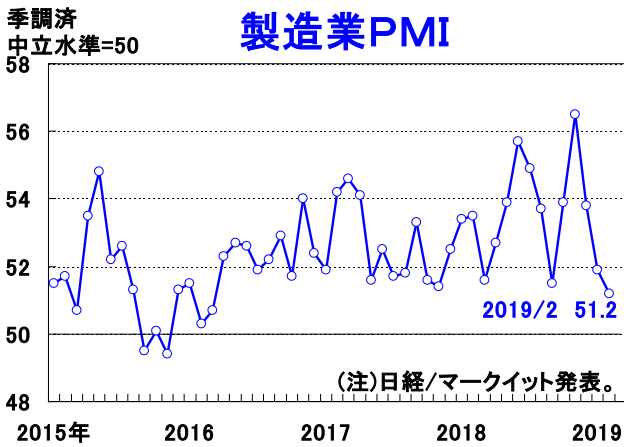
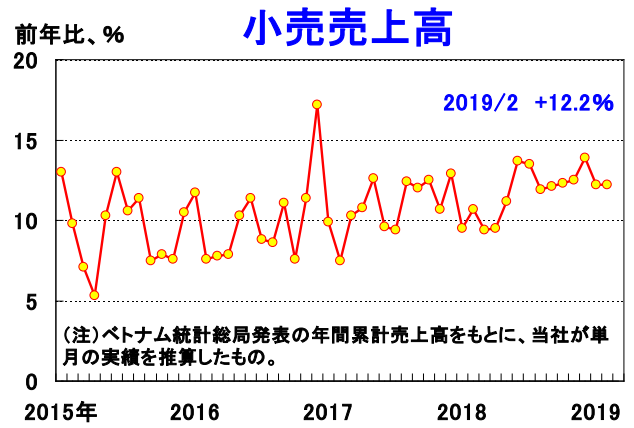
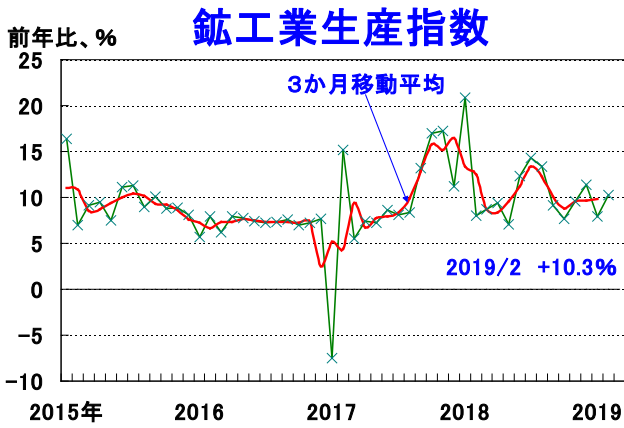
ベトナムの2月の景気指標をみると、前年のテト(旧正月)休暇に伴う企業の生産停止による反動もあり、今年の生産活動に関わる計数はやや強めの結果となった。すなわち、輸出が前年比+1.6%(前月は同-1.3%)と増加し、鉱工業生産も同+10.3%(前月は同+7.9%)と再び2桁の伸びとなった。製造業PMIは51.2と3か月連続で低下したものの、「生産」や「新規受注」の増加により、39か月連続で中立水準の50を上回っている。一方、家計部門をみると、小売売上高は前年比+12.2%と5か月ぶりに減速した前月と同じ伸び率を維持した。



【今月のトピック:米国が直行便を認可、深まる米越関係】 2月15日に、米連邦航空局は、ベトナムへの直行便の運行を認可したと発表した。近年、ベトナム政府は、航空分野の安全性を高める努力を継続して実施してきた。昨年、米連邦航空局はベトナムの安全状況を検査し、国際基準を満たしていることを示す「カテゴリー1」と呼ばれる評価を付与した。米朝首脳会談の直前に公表された直行便の就航認可は、米越関係の親交を深めることをねらいとしたものであろう。トランプ大統領の訪越期間中には、ベトナムの航空会社がボーイング社から110機を購入する契約が締結され、米越親善がアピールされた。

(出所) ベトナム国家銀行 (SBV)、ベトナム統計総局 (GSO)、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。



(出所) ベトナム統計総局 (GSO)、ベトナム自動車工業会、ベトナム国家銀行 (SBV)、IMF、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。